

科学技術連携施策群「バイオマス利活用連携群 平成 17,18 年度採択課題成果報告会」報告
環境・エネルギー G

1. 日 時 平成 21 年 2 月 16 日 (月) 13 時 00 分 ~ 17 時 00 分

2. 場 所 東京大学農学部弥生講堂 (東京都文京区)

3. 参加者 179 名

4. プログラム

(1) 大江田憲治・内閣府大臣官房審議官より開会の挨拶があり、「科学技術連携施策群 (バイオマス利活用連携群)」について内閣府・原沢英夫参事官から概要および経緯等の報告が行われた。

(2) バイオマス利活用システムの設計・評価手法 (17 年度採択課題)

研究代表者：藤江幸一 (横浜国立大学 / 豊橋技術科学大学)

システム構造および海外プランテーションの設計評価システムに関する研究について、藤江教授から適切な設計と評価にもとづく持続可能なバイオマス利活用システム・地域の実現を目指した手法の開発の概要および熱帯プランテーションにおけるバイオマス利活用システムの設計と評価に関する研究成果報告が行われた。引き続き、国内バイオマスタウンの設計・評価システムに関する研究について、迫田東京大学生産技術研究所教授から要旨集の付属資料として配付した「バイオマス利活用システム設計・評価ソフトウェア」を用いた土地利用、将来計画、物質循環、エネルギーフロー、環境保全などを総合的に考慮したバイオマスタウン構想の策定支援について、研究成果報告が行われた。

(3) 地域完結型地燃料システムの構築と運営 (18 年度採択課題)

研究代表者：五十嵐泰夫 (東京大学)

長野県信濃町におけるバイオエタノール・地燃料システムについて、五十嵐教授から資源循環システムの設計・構築に関する概要報告が行われた。バイオエタノール生産 (デンプン系、セルロース系原料) の実証試験の成果として、スロー糖化・発酵技術の開発について石倉東京大学研究員、地域小規模生産型エタノール生産プロセスの構築について望月東京大学准教授から報告された。地域完結型地燃料システムの設計・構築・運営に関する研究について高山 (株) 総合環境研究所代表取締役から成果が報告された。エタノール原料として、デンプン系 (古々米、資源米、ソルガム種子、規格外小麦など)、セルロース系 (稲わら、もみ殻、モルト粕) が利用され、プロセス熱源 (炭化・ガス化) として、もみ殻、リンゴ剪定枝が用いられた。また、エタノール生産に伴う残さの利活用についても研究成果報告が行われた。

引き続き、山梨県早川町で実施した地域の具体的なバイオマス利活用事業システムに関する持続可能性の評価について、鈴木山梨大学教授から地域の利用可能なエネルギー量の予測とその活用方法の妥当性評価項目を作成し、早川町を事例とした分析を行った結果、地域の高い信頼を確保したとの研究成果報告が行われた。

5. その他

(1) 採択課題成果報告会としては多くの参加者があり、発表ごとの質疑応答も活発に行われるなど盛会であった。

(2) 「バイオマス利活用システム設計・評価ソフトウェア」を CD-ROM にて 300 枚を用意したが、全て無くなるなどバイオマス利活用について地域が関心を寄せていることが分かった。



多数の参加があった会場の東大・弥生講堂